

編集後記

本号の特集は、「社会基盤工学からみた都市防災」です。災害が多発する国・日本において、防災力を支えている社会基盤工学をご紹介します。災害というと、大地震や津波のイメージが強いかもしれませんが、しかしそれ以外にも日本は、豪雨災害や土砂崩れ、毎年やってくる台風がもたらす被害など、実に多種多様な災害に見舞われ続けています。私は建築学科の教員なので社会基盤工学は分野外ですが、今回寄せてくださった5名の先生方の論考はどれもとても具体的でわかりやすく、現在まで蓄積された研究の知見が端的に示されています。

塚本良道先生は、近年フォーカスされている、豪雨による急傾斜地の崩壊、地滑り、土石流による災害と防災について、また菊池喜昭先生は、「土」が土粒子（固体）、水（液体）、空気（気体）の混合体から成り立つことを起点に、我々が日常踏みしめている地盤の捉え方と防災力の向上について論じて下さいました。いずれも山脈の多い日本において、自然環境の捉え方、見方を大きく変えるものと感じました。

木村吉郎先生は、「強風」がもたらす被害とその災害対策を、工作物別に論じて下さいました。建物単体のみならず仮設足場や橋梁など、役割や構築目的の異なる物体ごとに対策をたてることの困難さを提示されていると感じました。

二瓶泰雄先生は、被害範囲の広さと被害額、そして人的被害といった、豪雨災害や水害について普段思い至らない視点をもって論じて下さいました。建物単体をあつかうことの多い建築学からみると、社会基盤工学が国土をとらえる学問であるということがよく理解できました。

柳沼秀樹先生は、最先端の「交通」研究について論じて下さいました。特に被災時には、時々刻々状況が変化するため、時間軸という視点から防災をとらえる必要性を感じました。また近年話題のAI技術による研究方法の進化は非常に興味深く感じました。

近年、何か問題が起こると大学の教員がテレビに呼ばれ、専門知識を駆使してコメントしている様子をよく目にするようになりました。それだけ各研究分野が高度化し、専門家が必要とされる時代なのだと改めて思います。

今回意義深い論考を寄せてくださった社会基盤工学科の塚本先生、菊池先生、木村先生、二瓶先生、柳沼先生にあらためて御礼申し上げます。

〔垣野 義典：創域理工学部〕

次号予告

特集：機能性金属錯体懇談会の科学

- 概説：機能性金属錯体
- 金属錯体と有機分子のコンビナトリアル的集積による新機能性超分子の構築—酵素ミミックと抗がん活性化化合物の開発—
- 光合成の模倣から始まった複合金属ポルフィリン錯体の研究
- 金属錯体で水素結合の陽子を操る
- 精密金属クラスターを構成単位とした連結構造体
- 錯体ナノチューブの疎水性空間に拘束された水の特異な性質
- 機能性二次元金属錯体ナノシート

編集委員会 編集委員

渡辺 一之	名誉教授
田所 誠	理学部第一部 化学科
村上 秀俊	理学部第一部 応用数学科
佐々木健夫	理学部第二部 化学科
藤沢 匡哉	工学部 情報工学科
後藤田 浩	工学部 機械工学科
原田 陽介	薬学部 生命創薬科学科
石塚 正基	創域理工学部 先端物理学科
垣野 義典	創域理工学部 建築学科
増田 信之	先進工学部 電子システム工学科
井出野 尚	経営学部 経営学科
神野 潔	教養教育研究院 神楽坂キャンパス教養部



野田キャンパスに咲く満開のあじさい

SCIENCE 通巻 435 号
FORUM 科学フォーラム (創刊 1984 年 7 月)

2023 年 6 月発行 / 第 40 巻 3 号

発行人 浜本 隆之 (学校法人 東京理科大学理事長)

編集人 渡辺 一之 (編集委員会 委員長)

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂 1-3

TEL : 03-3260-4271 (代)

<https://www.tus.ac.jp/about/information/publication/forum>



お問い合わせは、**本学広報課**にお願いします。

TEL : 03-5228-8107, FAX : 03-3260-5823

理大 科学フォーラム編集室 (担当：亀山 亜土, 坂口 奈織美)

e-mail : henshu@admin.tus.ac.jp

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

印刷・製本 精興社

禁無断転載